

テーマ:土

五反田保育園

テーマを設定する

砂場で水を使って遊ぶ際に雨樋2本では足りないという話になり、牛乳パックで樋を作って、それを使って遊んだ。

対象年齢 5歳児クラス

活動 ～トイ遊び～

牛乳パックで作ったトイを使った砂遊び。

活動のねらい

砂や土に触れ、泥団子や川づくりなど、やりたいことをして遊ぶ事を楽しむ。

環境をデザインする

○準備した物: 水、ホース、タイヤ、スコップ、牛乳パックで作ったトイ。

探究活動を実践する

○活動内容

自分たちで作ったトイを使い、試したり工夫したりしながら砂場で遊ぶ。

○子どもたちの様子

- ・砂場ではタイヤを重ねて高低差を作り、トイを使用して高い所から水を流し、砂に流れていく様子を楽しんでいた。一人がタイヤの場所を変えようと運び出すと手伝う姿が見られた。子ども達が角度を繰り返し調節しながら「速くなった」「こっちに流して」「滝ジャンプだよ」「いいこと思いついた」「いいアイデアだね」友達の発した言葉に共感し、気持ちを共有しながら楽しんでいた。
- ・ホースを使用し、水を流していると「水のおかげですごくやわらかい」と感触の違いや「こっちは泥水、向こうはきれい水だね」と2層に分かれていることに気付いていた。触っていると段々混ざり、泥水になっていた。その様子を見ていた男児と女児が、「やりたい」と言ってきた。



振り返りをふまえた気づき

- ・トイ遊び等、思ったように遊びが進まなくても自分で工夫したり考えたりして、時には友達と一緒に遊びを発展させようとしている姿が印象的だった。
- ・子どもたち自身の経験の積み重ねやその時の遊ぶメンバーなどの様々な環境要因で新たな発見やアイデアが生まれ、そこから更に遊びが発展していた。保育者は子どもの気づきや発見に対して、その時に合った教材や環境を用意することが改めて大切であると感じた。

テーマを設定する

- ・日頃から野菜や植物の栽培や泥んこ遊びに興味をもっている姿が見られることから
土に触れて気づく感触や形態の変化等の特性について、子ども達の興味関心を更に深めるため。

活動 ～どろだんご作り～

- ・園庭で色水遊び、スライム、どろんこ遊びなど好きな遊びを楽しむ。

活動のねらい

- ・土や水、砂などの様々な素材に触れる中で、感触や形態の変化等の特性を知り
自分なりの発見を楽しむ。

環境をデザインする

○準備した物： 土、白砂、ざる、顕微鏡、牛乳パック、水、スライム、布。

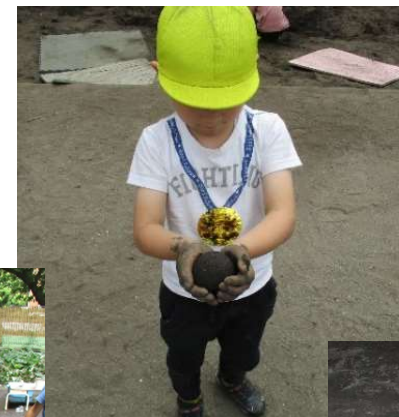
探究活動を実践する

○活動内容

- ・色水あそび、スライム、砂場での泥・水遊びができるように設定をし
子どもが好きな場所を選んで遊ぶ。

○子どもたちの様子

- ・それぞれの場所で遊びながらも友達が遊びの中で発見したことに
「すごいね」と共感したり、色水とスライム・泥とスライムを混ぜてみることを
試してみたりしていた。
- ・泥にスライムを混ぜてみることを思いつき試していた。
- ・ドロドロしていたが、次第にまとまっていき、団子になっていった。
- ・年間を通して泥団子に親しんできた中で、新しい素材を土に混ぜてみたらどうなるかを
発見していた。
- ・初めてどろだんご作りをしたいといって触れることができた子がいた。



振り返りをふまえた気づき

・全て知らせるのではなく、考え、工夫する時間を設けながら、機会を見計らって必要な手助けをすることで、次に進んでいけると思う。これまでの遊びで積み重ねてきた経験を発揮し、スライムを混ぜると丸まりやすく壊れにくい発の共有が、発見した子も教わった子も、双方嬉しそうだった。一人だと、自分なりに取り組んで終わることも、友達と一緒にだと「憧れの泥だんご」を目指して、友達と協力する気持ちが高まることを知った。思い通りにならないこと、うまくいかないことの経験の積み重ねは、心の安定、“友達”がいることは、やってみよう！と挑戦する心が育つことに気づいた。

活動 ～小松菜の種を植える～

園庭の柿の木に実がなり、柿を食べた3人の子ども達が種に興味をもち
自分達で種を植えたが芽が出てこない・・・。
どうしたら芽が出てくるのかと試行錯誤していた。

活動のねらい

・芽が出てくる経験を味わえるような活動を行った。

環境をデザインする

○準備した物：土、肥料、植木鉢、プランター、小松菜の種。

探究活動を実践する

○活動内容

・植物を育てることに興味をもっていたので、土づくりから行った。



○子どもたちの様子

- ・保育者から小松菜の種を植えることを聞き、目を輝かせていた。
- ・土づくりから始め、やわらかい土を作るために手をこすり合わせて土を作っていた。
- ・小松菜の種を間引きしているグループの子ども達を見ながら「土の量や水の量」を加減しながら進めていた。
- ・最後は、皆で相談をし、陽の当たる場所に植木鉢を置いていた。

振り返りをふまえた気づき

- ・積み重ねた経験が活かされた姿があった。
- ・保育者は正解だけを伝えてしまうのではなく、「考え」「試し」「また考える」という繰り返しの経験ができることによって、わくわく感を味わい、意欲につながる。